

令和5年度 岩手県立宮古高等看護学院 学校運営評価

1 学校評価の目的

学院の学校運営、教育全般について評価を行い、組織的・継続的な改善を図る

2 学校評価の実施方法(評価者、評価時期)

- 1)教職員が評価表に基づき年度末までに評価を実施し、教員会議で協議する
- 2)1)の結果を教育運営会議で協議し最終評価とする

3 評価項目

学校運営に関する8項目の評価分類、40項目の評価項目について評価する

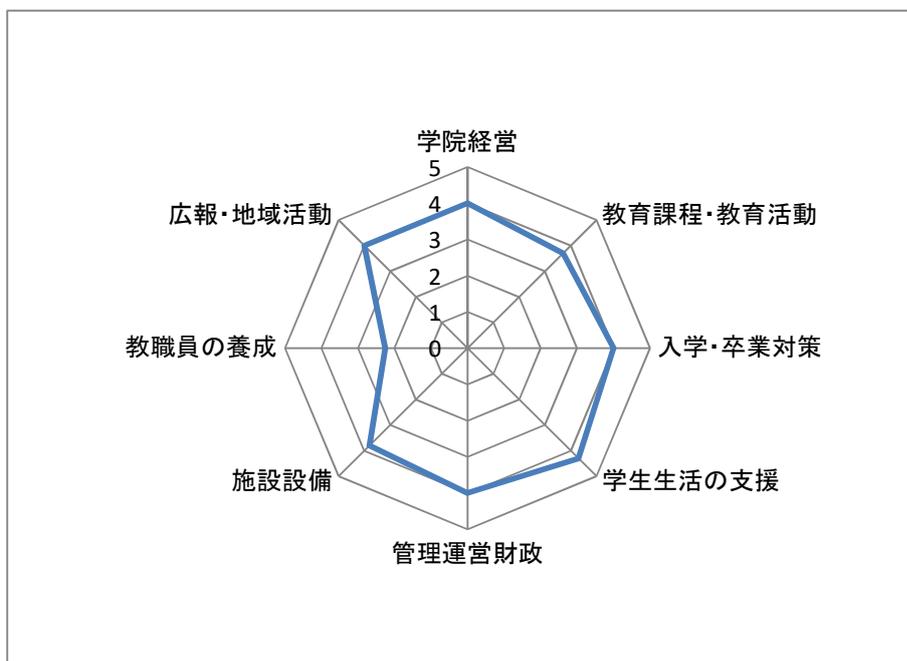
1	学院経営	5	管理運営財政
2	教育課程・教育活動	6	施設設備
3	入学卒業対策	7	教職員の養成
4	学生生活の支援	8	広報・地域活動

4 評価尺度

5:良い 4:やや良い 3:ふつう 2:やや不十分 1:不十分

5 評価結果

1	学院経営	4
2	教育課程・教育活動	3.7
3	入学・卒業対策	4.0
4	学生生活の支援	4.3
5	管理運営財政	4.0
6	施設設備	3.8
7	教職員の養成	2.3
8	広報・地域活動	4.0



6 評価結果の分析

評価項目	現状	課題
学院運営	業務方針に基づいた主要課題(国試対策、主体的に学ぶ学生の育成、社会人基礎力の育成、岩手の復興を担う人材の育成、入学生の定員確保、学習環境の整備、実習施設との連携強化等)に取り組んだ。各主要課題について、担当教員が中心となり年間目標、実行計画の具体策を立案、計画に基づいて実践した。	主要課題への取り組み状況や到達度を評価し令和6年度の業務運営方針に反映させる。組織全体で課題を共有し、進捗状況に応じた支援体制を構築する。
教育課程 教育活動	新カリキュラム施行から2年経過した。各分野(基礎、専門基礎、専門)のねらい・科目概要・教育内容・国試出題基準等を参考にシラバスを作成、講師へ依頼している。臨地実習では、感染による影響が生じた場合でも学生の単位習得に影響が生じないよう、実習方法について変更案を検討して対応した。専任教員と実習病院の管理者・指導者が連携する体制が確立されており、教員間でも学生の状況をタイムリーに共有している。	新カリキュラム施行から2年経過したが、基礎分野、専門基礎分野、専門分野の各科目の教育内容の充実に向け、引き続き検討する。第113回国家試験は全員合格、5年連続100%を達成した。国試対策について学年毎に対策を検討し、継続して取り組む。
入学卒業 対策	令和4年度と比較し、令和5年度受験者数はほぼ横ばいである。学校公開を開催し、75名の参加があった。学院ホームページの充実を図るほか、学生の出身高校へ学生が作成したニュースレターを送付し学院の魅力を発信した。県内で開催される進学セミナーへの参加、地域施設への社会人入学に関する情報発信など入学生確保に向け取り組んだ。県内病院の求人情報を学生に提供している。令和5年度卒業生の県内就職率は約76%であり、県内就職率70%の目標を達成した。	学院の魅力を広く発信するため、引き続きホームページの充実に取り組む。令和6年度も学校公開を開催し、多くの方に参加していただけるようPRするとともに、学生確保に向けて取り組む。就職・進学について、学生個々の希望が達成できるよう支援する。
学生生活 の支援	全学年の担任・副担任が中心となり、定期的に面談を実施、就職・進学や学生生活における悩みなど個別に対応している。学内では就職ガイダンスを2回/年開催、県内で開催される就職セミナー情報を発信等し参加を促すなど、進路決定を支援している。その他、奨学金に関する情報提供や手続きは担当者を中心に実施している。6回/年、カウンセリングを実施しており、希望する学生が受けられるよう調整している。	学生個々の希望に応じた進路決定支援、経済的問題や精神的側面から支援し、学生が学業に専念できる環境づくりに今後も継続して取り組む。
管理運営 財政	年間の予算計画に基づき事業を執行している。監査の結果も概ね良好との評価であった。節電やリサイクル用紙の使用など、可能な範囲で経費削減に努めている。災害発生時に教職員・学生が迅速に対応できるよう、災害対応マニュアルを改訂した。	学院運営に対する学生の意見や要望を取り入れる方法として意見箱を設置したが、引き続き学生の意見や要望を聞く方法について検討する。
施設設備	情報管理室のパソコンは一人1台使用可である他、Wi-Fi環境が整備されつつある。体育館、多目的ホール、カンファレンス室、講堂などは、学生の学習やサークル活動に活用されている。昨年購入した教材を活用し、学内実習に対応した。学院玄関スペースに椅子・テーブルが設置され、学生に活用されている。	オンラインによる遠隔授業や電子教科書使用を見据え、引き続きWi-Fi環境の整備と学生が快適に過ごせる環境づくりに取り組む。
教職員の 養成	岩手県看護協会主催のラダー別スキルアップ研修会や日本看護学校協議会主催の研修会、国試対策講座など、可能な日程で各教員が受講しているが、研修での学びを共有する機会が少ない。学内演習等は複数の教員が担当するが、他の教員の授業公開や参観はできていない。	専任教員の授業を参観、授業評価を共有、スキルアップを目的とした研修への参加など、継続して取り組む。
広報・地域 活動	ホームページで授業風景や学院行事の様子等、タイムリーに発信している。16名の学生が学習支援員研修会を受講し、市内子ども食堂等へのべ37人が参加した。また、市内小学校の宿題お助け隊としてのべ4名の学生が参加した。その他、学院周辺の清掃活動や雪かき、保育所・子ども園・高齢者施設へメッセージカードの送付など、地域の皆様へ感謝の気持ちを伝える活動を行った。	令和5年度は、感染のリスクを考慮し、参加を見合わせたイベント(宮古秋祭り、みやこタウン等)もあるが、学生自治会を中心に、引き続き可能な範囲で地域活動に参加できるよう支援する。学校見学希望者には随時対応する